

知恩院周辺エリア

～知恩院門前(古門前・新門前通)
神宮道(高台寺・円山公園・八坂神社
青蓮院)・将軍塚～

エリア概要

- 知恩院、青蓮院、八坂神社等の歴史的建造物などを含む円山公園及び八坂神社一帯では、青蓮院や知恩院、八坂神社及び円山公園などの変化に富む要素と東山山麓の自然とが組み合わされて、京都の代表的景勝地を作っている。これを取り巻く形で、神宮道を初め、蹴上から栗田・華頂などの地区や三条通周辺などの散策道沿いでは趣のある沿道景観が形成されている。

- 円山公園及び八坂神社の一帯は、古い時代から山麓側の社寺・公園区域、その眼下には祇園の市街地が迫っていたが、現在では、建物の高さや形態は大きく変化し、とりわけ急傾斜の山地の裾野に広がっている帯状の緩傾斜地においてこのことが著しい。
- 東山連峰を構成する山並みの量感のある緑が保全されている。

知恩院

知恩院は、平安末期に法然が造営したことに始まる。以降、浄土宗総本山として室町・戦国期を通して幾度の戦火を経て、朝廷・武家等の崇拝・保護を得、繁栄を誇ってきた。今日の寺観を整えるのは江戸時代以降である。¹⁾

境内からは、境内の伽藍越しに市街地を望むことができる。



三門



知恩院門前

知恩院前の知恩院通と華頂通には、華頂学園として、幼稚園から大学までが備わっており²⁾、かつての境内地であったこともあり、塔頭が多く見られる。

また、東大路通より西に行くと、東西に古門前通と新門前通の2本の道路を通じ、それに沿って町並みがある。古門前通の開発は寛永年間、新門前通の開発は寛永5年(1665)と伝えられる。³⁾ 骨董品店や古美術商が多く並んでいたといわれ、現在もその面影を残す。⁴⁾



新門前通



古門前通



華頂通

神宮道

神宮道沿いには、青蓮院・高台寺・八坂神社等の大規模な寺院が集積し、連続感のある和風塀と道路沿いのクスノキ等の樹木と、東山、円山公園の緑地が広がる、特徴的な景観が見られる。



青蓮院周辺の眺め



青蓮院



八坂神社



円山公園

白川・新橋通・白川南通

江戸時代までは白川が岡崎一帯を潤し、園池や畑作、あるいは手工業にその水が利用され⁵⁾、現在も川沿いの道と一体的な景観を形成している。

祇園新橋通・白川南通も白川と一帯となった景観を形成しており、今日なお、お茶屋街としての独特の景観を維持し、歴史的町並みの保存・修景がはかられている。



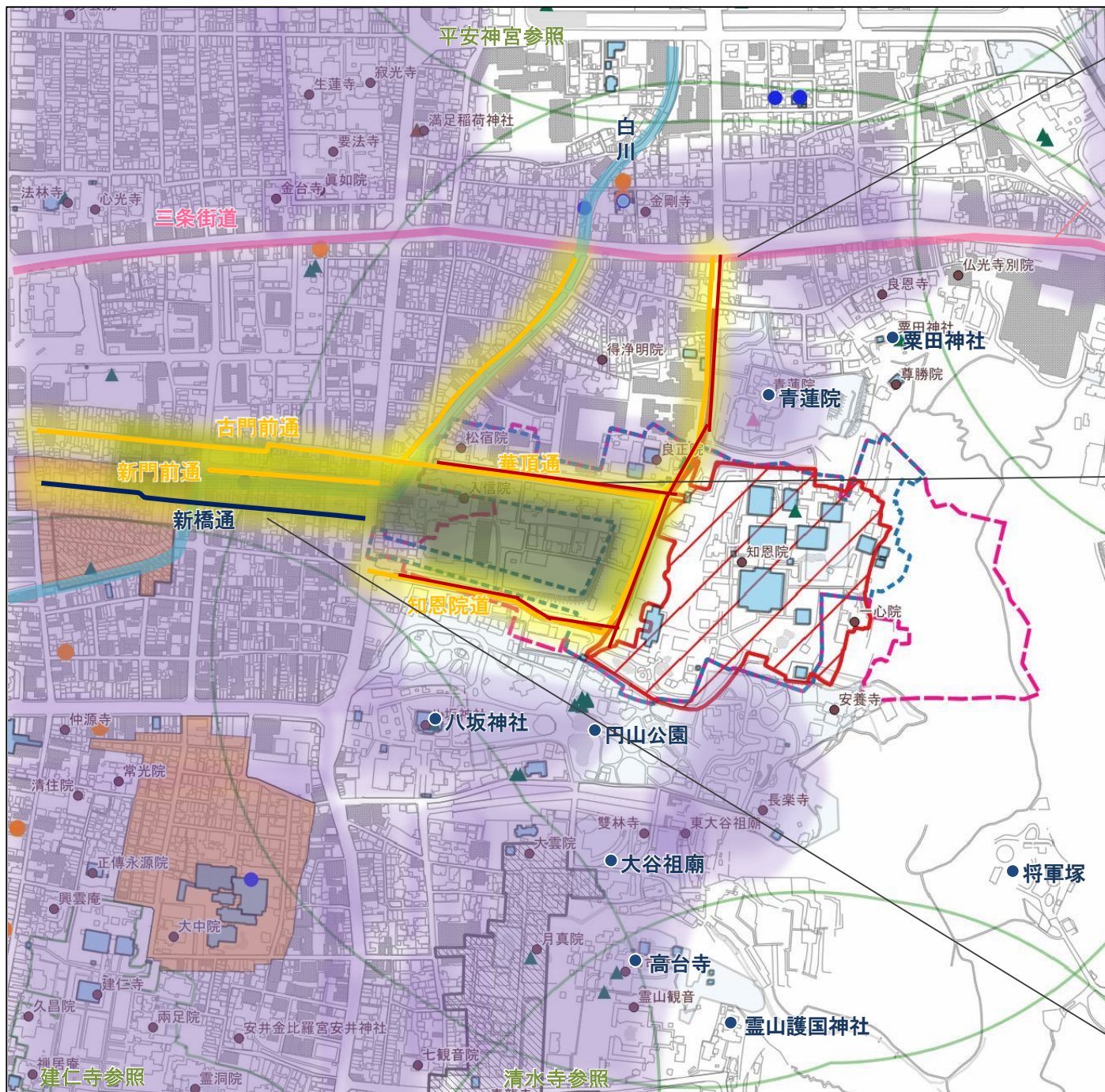
知恩院古門前



新橋・南白川通

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り
- (白線) エリアの主な通り

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

- | | | |
|------------------|--------------------|-------------|
| 視点場（境内） | 建造物・庭園 | 樹木 |
| 視点場（参道等） | 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 | 天然記念物 |
| 近景デザイン保全区域 | 歴史的意匠建造物 | 保存樹・区民の誇りの木 |
| 特に着目する通り | 界わい景観建造物 | |
| 明治25年以前から存在する市街地 | 京を彩る建物や庭園 | |
| 界わい景観整備地区 | 文化財（建築物） | |
| 歴史的景観保全修景地区 | 文化財（史跡・名称） | |
| | 国土地理院社寺データ等 | ※ |

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

三条街道

都から東へ向かう官道（東海道・東山道・北陸道）が栗田口を通過して山科盆地に抜ける道として設定されたことは、岡崎に大きな影響を与え、流通・往來の中心に接する地域としての性格を帯びることになった。⁶⁾

江戸時代のごく初期から町並みがあり、東海道の終点ということで旅人相手の旅籠屋が多く、旅館街を形成していた。⁷⁾

現在は、琵琶湖疏水に関連する施設が多く立地し、景観の特徴となっている。



インクライン※



蹴上発電所

知恩院門前

ここには東西に古門前通と新門前通の2本の道路を通じ、それに沿って町並みがある。古門前通の開発は寛永年間と伝えるが、一説には慶長8年（1603）の知恩院再建の時ともいう。新門前通の開発は寛永5年（1665）。この時に古門前通の町とあわせ、知恩院門前町が完成した。⁸⁾

これらは古美術の通りとして知られ、明治中期頃に、三条通周辺や円山公園に外国人観光客向けのホテルが登場したのがきっかけであるという。⁹⁾

知恩院前の知恩院通と華頂通には、華頂学園として、幼稚園から大学までが備わっており¹⁰⁾、かつての境内地であったこともあり、塔頭が多く見られる。



新門前通



古門前通



華頂通

新橋・新橋通

新橋は、新橋通にある白川に架かる橋であり、1762年刊「京町鑑」に、位置が示されているという。新橋通の造成とともに架橋されたと考えられている。¹¹⁾

今日なお、お茶屋街としての独特の景観を維持し、歴史的町並みの保存・修景がはかれている。

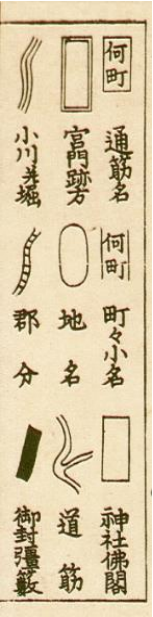
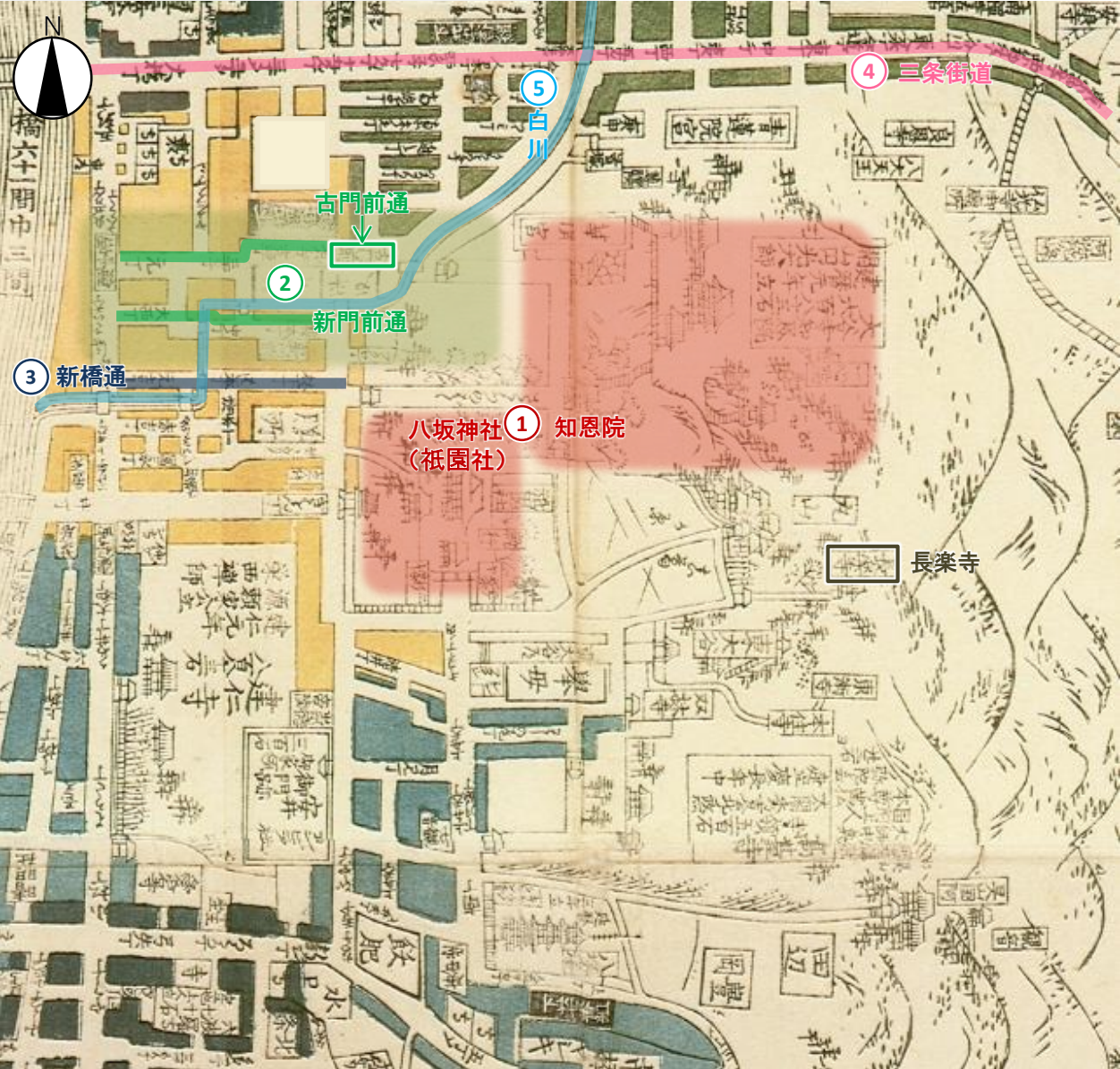


新橋・南白川通

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)（上地政策による境内地減少前）



京町御絵図(明治2年)

古代・中世を通じて、この地域を象徴する建造物であり、また信仰の対象となったものに祇園社・知恩院があげられる。

① 祇園社・知恩院

祇園社は創建以来、この地区の鎮守として崇敬を集め、各時代を通じて大きな影響をもたらした。知恩院は、平安末期に法然が造営したことに始まる。以降、浄土宗総本山として室町・戦国期を通して幾度の戦火を経て、朝廷・武家等の崇拝・保護を得、繁栄を誇ってきた。天正元年（1573）には織田信長の本陣ともなったが、今日の寺観を整えるのは江戸時代以降で、慶長8年（1603）に徳川家康の浄土宗保護政策にもとづき、大規模な寺域の拡大と堂舎の建設・寺領の寄進が行われたことを端緒とする。そのほか当区域内には以上述べてきた寺社に隣接して、長楽寺や安養寺が設けられた。¹²⁾

② 知恩院門前

ここには東西に古門前通と新門前通の2本の道路が通じ、それに沿って町並みがあるが、最初に古門前通、次に新門前通と二度にわたり開発された。古門前通の開発は寛永年間と伝えるが、一説には慶長8年（1603）の知恩院再建の時ともいう。新門前通の開発は寛永5年（1665）。この時に古門前通の町とあわせ、知恩院門前町が完成した。いずれも知恩院の所領であるが松原町のみは延宝6年（1678）以降、その一部が祇園社（八坂神社）領に編入された。これは知恩院が山門に通じる道筋を祇園社領北林の中に設けたので、その替え地として与えられたものである。¹³⁾

③ 新橋・新橋通

新橋は、新橋通にあり白川に架かる。1762年刊「京町鑑」に、位置が示されているという。新橋通の造成とともに架橋されたと考えられている。¹⁴⁾ この道筋には祇園内六町を形成しており、祇園内六町の称呼は明治に廃された。¹⁵⁾

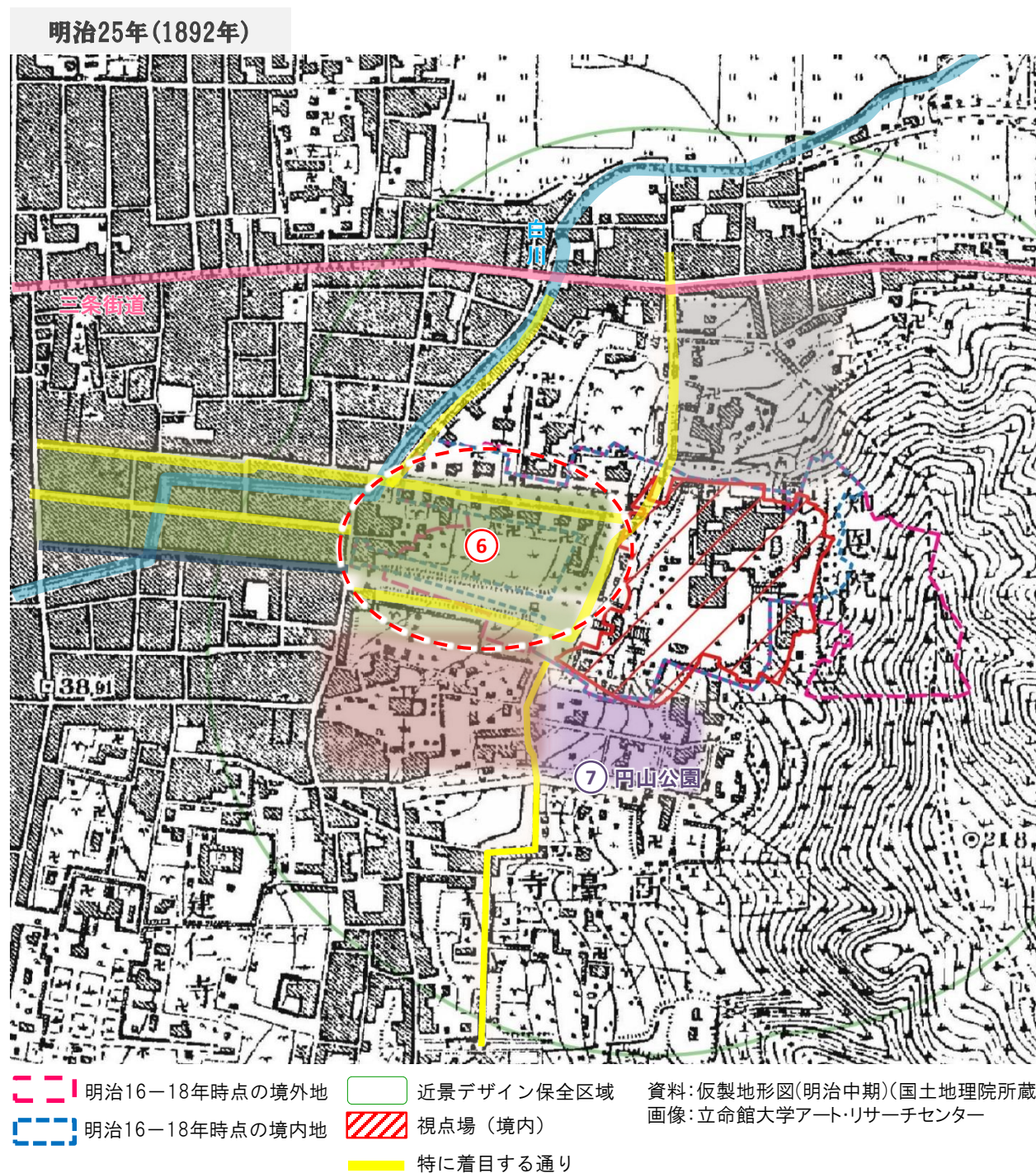
④ 三条街道

都から東へ向かう官道（東海道・東山道・北陸道）が栗田口を通過して山科盆地に抜ける道として設定されたことは、岡崎に大きな影響を与え、流通・往来の中心に接する地域としての性格を帯びることになった。¹⁶⁾ 江戸時代のごく初期から町並みがあり、東海道の終点ということで旅人相手の旅籠屋が多く、旅館街を形成していた。¹⁷⁾

⑤ 白川

江戸時代までは白川がこの地を潤し、園池や畑作、あるいは手工業にその水が利用された。¹⁸⁾

エリアの土地利用の変遷（2）

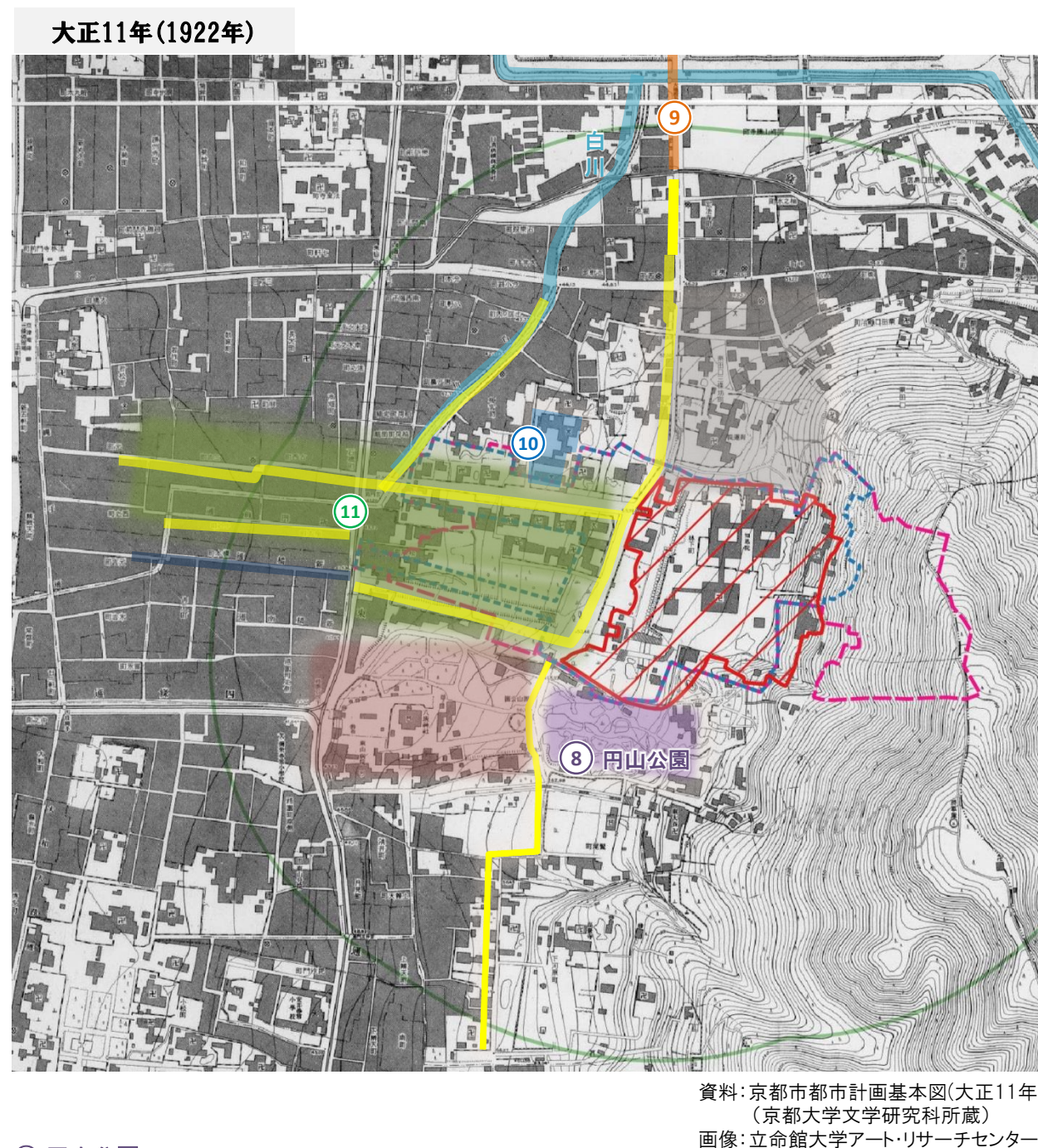


⑥ 知恩院境内

明治現在門前にある塔頭も含めて、広く境内であった。現在も一体的な景観を形成している。

⑦ 円山公園

明治19年、維新後の神仏分離によって取り壊された祇園感神院の坊舎の跡地、円山一帯の社寺境内地、安養寺の地などを公園に指定。円山安養寺にちなんで円山公園と命名した。¹⁹⁾



⑧ 円山公園

明治22年に京都市制施行とともに市へ移管、大拡張整備・改修を行い、大正3年に完成した。²⁰⁾

⑨ 神宮道

明治28年(1895)に開催された平安遷都千百年記念祭及び第4回内国勸業博覧会の後、明治32年(1899)12月に応天門前の冷泉通から疏水慶流橋までの間の市有地が風致保存のために官有地となり、平安神宮参道として、慶流橋と応天門を結ぶ、神宮道が通された。²¹⁾

⑩ 知恩院学校施設

明治44年には市立華頂女学校が開校した。現在、知恩院門前には、華頂学園として、幼稚園から大学までが備わっている。²²⁾

⑪ 新門前・古門前通

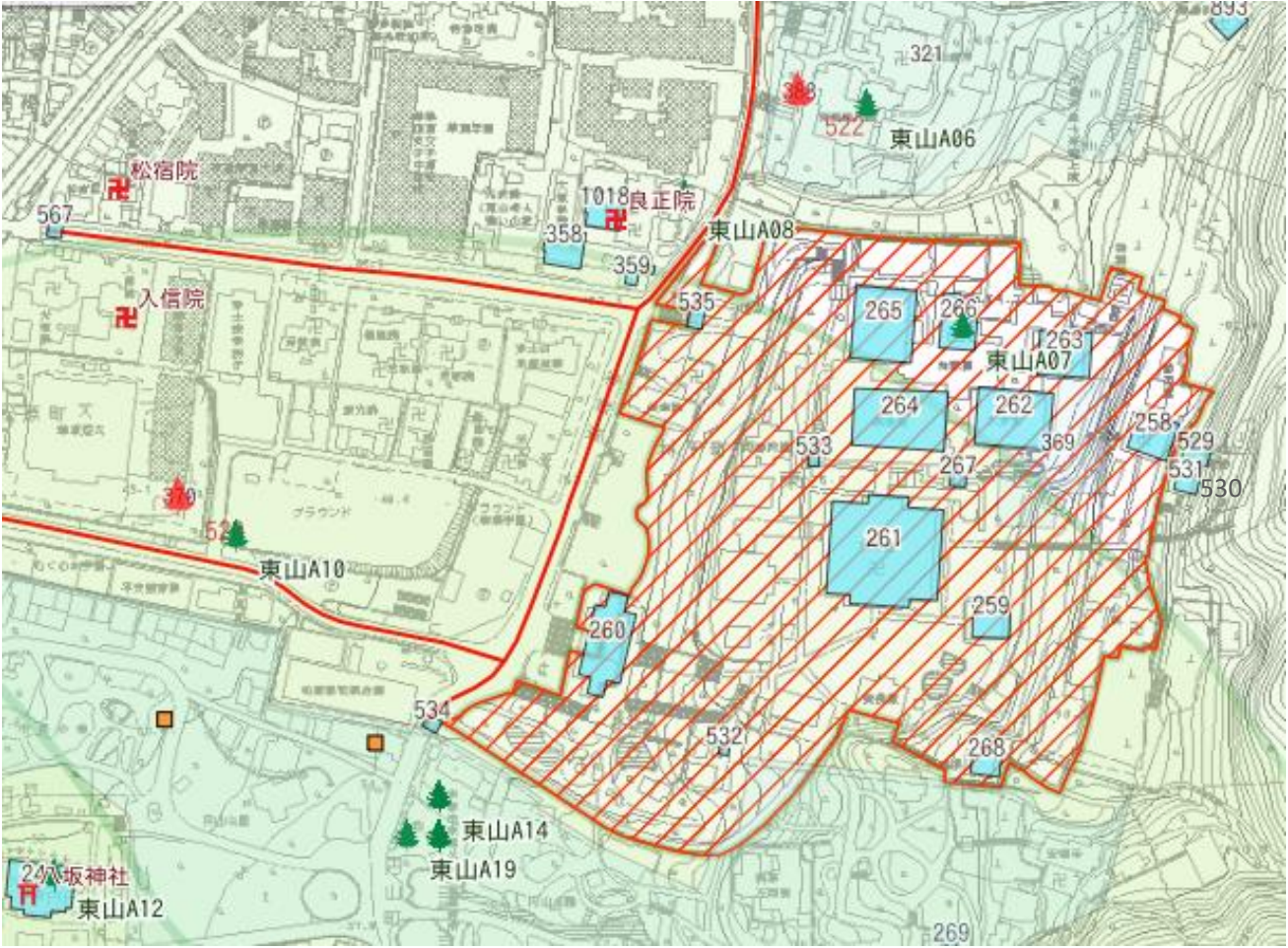
明治中期頃に、三条通周辺や円山公園に外国人観光客向けのホテルが登場したのがきっかけで²³⁾これらの通りは古美術の通りとして知られたという。

知恩院

円山公園の北、華頂山麓に位置し、北に青蓮院がある。七万三千坪の境内に多くの堂塔伽藍を有する洛東の巨刹。知恩教院大谷寺と号する。浄土宗総本山。全国に七千余の末寺をもつ。浄土宗の開祖法然房源空の死没の地にあたり、本堂（御影堂）に法然の御影を安置する。法然は長承2年（1133）美作国久米郡南条の稲岡庄で、久米郡押領使漆間時国の子として生れた。15歳で比叡山に登り、西塔北谷の持房源光の下で天台学を学び、さらに黒谷慈眼房叡空の庵室に入って諸宗の章疏を歩猟した。承安5年（1175）唐の浄土教の祖善導の「観経疏」によって称名念仏による悟りを開き、従来の天台念仏と決別して比叡山を降り、「つみに四明の巖洞をいてゝ、西山の広谷といふところに居をしめ」た（法然上人絵伝）。粟生の光明寺（現京都府長岡京市）がその遺跡にあたる。その後、東山大谷の吉水に移り住んだが（同絵伝）、これが現在の知恩院の地である。²⁴⁾

■ 文化財

国宝	三門	260	本堂(御影堂)	261		
国指定重要文化財	勢至堂	258	経蔵	259	大方丈	262
	小方丈	263	集會堂	264	大庫裏	265
	小庫裏	266	唐門	267	大鐘楼	268
府指定文化財	御廟堂	529	御廟唐門	530	御廟拝殿	531
	鎮守堂	532	四脚門	533	南門	534
	黒門	535	総門	567		
市指定名勝	方丈庭園	369				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建築物・庭園

景観重要建築物・歴史的風致形成建築物

歴史的意匠建築物

界わい景観建築物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

知恩院境内の歴史的資産と守りたい眺め(2)

[国宝]



三門※



本堂（御影堂）※

[市指定名勝]



方丈庭園

[国指定重要文化財]



勢至堂※



経蔵※



大方丈※



小方丈※



集會堂※



大庫裏※



小庫裏※



唐門※



大鐘楼※

[府指定重要文化財]



御廟堂※



御廟拝殿※



御廟唐門



鎮守堂※



四脚門※



南門※



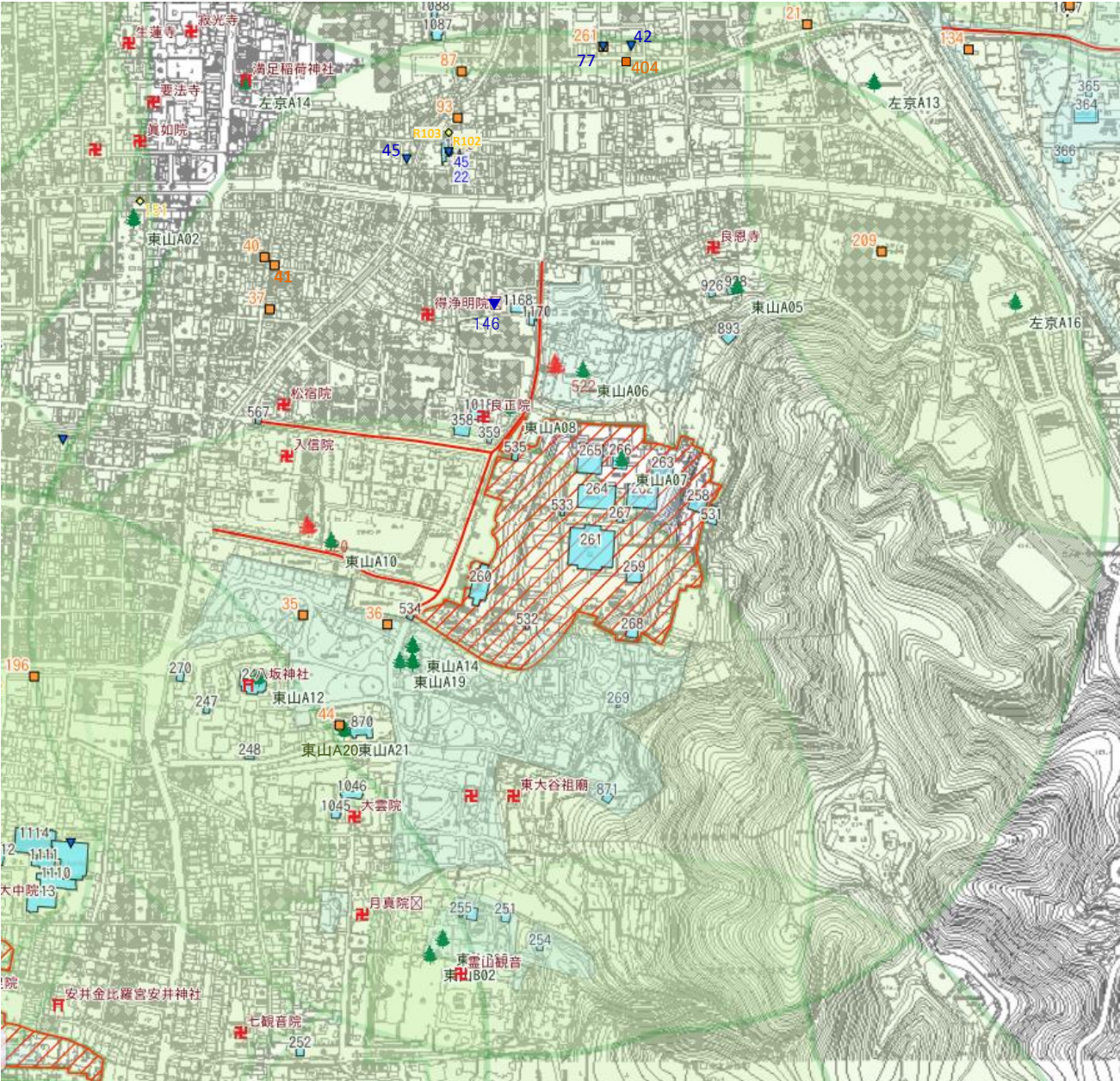
黒門※



総門※

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

知恩院周辺の歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

-  視点場（境内）
-  視点場（参道等）
-  近景デザイン保全区域
-  特に着目する通り
-  明治25年以前から
存在する市街地
-  界わい景観整備地区
-  歴史的景観保全修景地区

建造物・庭園

-  景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
 -  歴史的意匠建造物
 -  界わい景観建造物
 -  京を彩る建物や庭園
 -  文化財（建築物）
 -  文化財（史跡・名称）
-   国土地理院社寺データ等 

樹木

-  天然記念物
-  保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

知恩院 塔頭

良正院



本堂※1
重文



表門※1
重文



鎮守堂※1
府指定

八坂神社

[国宝(本殿), 重要文化財(石鳥居, 楼門, 末社蛭子社社殿等)]

四条通の東端に位置し、背後は円山公園。東大路通に面する西側に朱塗の西楼門があるが、正面は南の下河原通に開かれた南楼門で、本殿も南面する。境内には本殿・拝殿を龍芯に多くの摂社・末社がある。旧官幣大社。平安時代には22社の一つで、近代以前は祇園感神院、また祇園社と称し、明治維新に伴う神仏分離後、現社名となる。祭神は素戔鳴（旧牛頭天皇）²⁵⁾



本殿※1
国宝



末社 蛭子社社殿※1
重文



石鳥居※1
重文



楼門※1
重文

青蓮院

[国指定史跡(旧仮御所)]



旧仮御所※ 1
国指定史跡

華頂山麓に位置し、知恩院に北隣する。西側栗田門前通に面して石垣が積まれ、寺域は台地上にある。宸殿を中心に書院・小御所など大小の建物が建ち並び、方形の本堂（熾盛光堂）は寺地の南端に位置する。山号はない。天台宗。梶井門跡・妙法院門跡と並ぶ天台門跡の一つ。本尊は熾盛光如来。かつては十楽院とも号し、俗に栗田口御所とも呼ばれる。²⁶⁾

將軍塚

 $\times 2$

東山区円山公園の東方、花頂山上にある円墳。径七間余、高さ一間余。延暦13年（794）桓武天皇が平安遷都に際し、王城鎮護のため長さ八尺の土偶を作り、鉄の甲冑を着せ、弓矢をもたせて埋めたと伝える。天下に異変があれば必ず鳴動して予兆を示すとされ、「保元物語」はじめ種々の文献に記事がみえる。明治38年に整備し現状となる。右京区高山寺に縁起を記した将軍塚絵巻一卷がある。なお「京羽二重織留」は所在地を東山区泉涌寺の山上とし、花頂山の塚は花山院の陵とする。²⁷⁾

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
 ※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

知恩院周辺の歴史的資産(2)

■ 高台寺

[重要文化財(開山堂等), 国指定史跡及び名勝(庭園)]

霊山の山麓, 真葛ヶ原の南, 八坂法観寺の北東に位置する。表門は境内南西にあって下川原町通に面し, 庫裏・仏殿・開山堂・霊屋・傘亭・時雨亭などが東面して山寄りにつらなる。庭園は国指定史跡・名勝。山号は鷲峯山。臨済宗建仁寺派。本尊釈迦如来。豊臣秀吉の夫人北政所高台院湖月尼の開創, 京都建仁寺三江を中興とする。²⁸⁾

開山堂※
重文霊屋※
重文表門※
重文傘亭(安閑窟)※
重文時雨亭※
重文観月台※
重文

国指定

■ 円山公園

[国指定名勝]

東山区円山町・祇園町・鷲尾町にまたがる公園。面積86,641平方メートル。明治6年1月, 政府は太政官布告を出し各地方に公園を設けるように明治, 京都では同19年, 維新後の神仏分離によって取り壊された祇園感神院の坊舎の跡地, 円山一帯の社寺境内地(祇園の三院三坊の寺領), 安養寺六坊の地などを公演地に指定。円山安養寺にちなんで円山公園と命名。同22年京都市制施行とともに市へ移管, 大拡張整備を行い, 大正3年に完成した。昭和3年に屋外音楽堂を建設, 同6年には文化財保護法により名勝地となり, 42年古都保存法特別保存地区に指定。庭園の池泉・枝垂桜は有名。²⁹⁾



国指定名勝 ※

■ 景観上重要な建築物, 庭園等

並河靖之七宝記念館

[国登録文化財, 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物, 歴史的意匠建造物]



◆R102 ▼45▼22

(指定理由)

伝統的な京町家の外観意匠を良好に保持しており, 白川周辺の景観の形成に重要である。

有線七宝記念館として, 七宝の芸術を伝える施設であり, 京町家の歴史的意匠とともに現代に継承する重要な建造物である。伝統と進取の気風の地としての歴史的風致を形成している。

西川家住宅

[国登録有形文化財(主屋・土蔵)・歴史的風致形成建造物]



国登録 ▼42 ※

(指定理由)

京都の近代化を牽引した岡崎の地における, 商家の居宅として, また客をもてなす空間として建築され, 今なお, その文化を歴史的意匠とともに現代に継承する, 重要な建造物である。伝統と進取の気風の地京都の, 歴史的風致を形成している。

大野邸

[歴史的風致形成建造物, 京都を彩る建物や庭園]



▼77 ■261

昭和13年に岡崎において建築された建造物である。和風邸宅が立ち並ぶ一角に位置する。

(指定理由)

京都の郊外住宅地において, 昭和の始め頃, ほぼ同時期に建築されたと見られる近代和風住宅が建ち並ぶ一角にあって, 今なお往時の姿を歴史的意匠により, 現代に継承する重要な建造物である。

三味洪庵

[歴史的風致形成建造物]



▼45

(指定理由)

昭和初期の商家としての歴史と暮らしの場である京町家の伝統を歴史的意匠により現代に継承する, 重要な建造物であり, ものづくり・商い・もてなしのまち京都, 及び暮らしに息づくハレとケのまち京都としての歴史的風致を形成している。

得浄明院

[歴史的風致形成建造物]



▼146

(指定理由)

善光寺大本願の京都別院として誓圓尼の発願により創建された尼門跡寺院であり, 本堂の戒壇廻りは, 長野の善光寺に倣っており, 当時の善光寺信仰を今に伝える。

並河邸北棟

[歴史的意匠建造物]



◆R103

※: (画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

知恩院周辺のその他の歴史的資産(1)

■ 文化財(建築物), 史跡・名勝 等

いもぼう平野家 本家

[京都を彩る建物や庭園]

八坂神社のすぐ近くの東北に位置。数寄屋風の日本建築で、敷地内から屋根を突き抜ける「棕（樹齢約200年）」の大きな枝が建家全体を覆っている。



■ 35



いもぼう平野家 本店

[京都を彩る建物や庭園]

江戸時代から代々暖簾を受け継ぐ料理店。外回りは黒文字垣，二階は虫籠窓，壁は聚楽となっており，昔ながらの雰囲気も多くの方が好まれている。



■ 36



オダ薬局

[京都を彩る建物や庭園]

寛政8年（1796）開業の薬局。建物は典型的な町家形式を残し，奥の光天井がある吹き抜けは，光と影が作り出す幻想的な空間を作っている。



■ 37

小町家

[京都を彩る建物や庭園]

京漬物屋兼住居だった築100年の町家を改修した貸し町家。土間，通り庭，虫籠窓，格子戸，坪庭など美しい京町家の意匠が詰まっている。



■ 40



阪本商店

[京都を彩る建物や庭園]

古川町商店街の中央部に位置し，ガラス張りの明るさと格子などの和の雰囲気を活かした店構えとなっている。虫籠窓も残る歴史のある建物。



■ 41



青山家

[京都を彩る建物や庭園]

元々精米業を営む。母屋と連続した作業所には水車と疎水から水を引き込んだ形跡がある。白川沿いの板塀の外観は写真撮影の場となっている。



■ 93



井口家

[京都を彩る建物や庭園]

昭和元年（1926），京都パライス跡の分譲地に建てられた洋館の住宅。この地域には珍しい洋館で，現在も素敵な姿を見せている。



■ 404

長楽館

[市指定文化財，京都を彩る建物や庭園]

明治42年（1909）に，日本の煙草王・村井吉兵衛がヨーロッパや中国の様々な建築様式を組み込んだ別荘として建築。往時の香りが残る雰囲気の中，現在はカフェ＆レストラン。



■ 44



「たばこ王」と称された明治時代の実業家村井吉兵衛が建てた別荘。煉瓦造の3階建ての屋根は寄棟造の天然スレート葺きで，正面にイオニア式の玄関ポーチを持つ。内部の凝った意匠に見るべきところがあり，明治時代後期における和洋折衷の住宅建築の代表例である。

■樹木等

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
カツラ：蹴上浄水場			 左京A16
ツバキ：粟田神社			 東山A05
クスノキ：青蓮院	▲18		 東山A06
ムクノキ：蓮月茶屋			 東山A08
モモ：先求院			 東山A09
ムクロジ：知恩院参道	▲6		 東山A10
クスノキ：八坂神社			 東山A12
ヒマラヤスギ：長楽館			 東山A20
ヒロハノナンヨウスギ：長楽館			 東山A21
クスノキ：高台寺			 東山B02
ツブラジイ：高台寺			 東山B03

[国指定重要文化財]



安養寺宝塔※1
重文

[国登録文化財]



祇園閣※1
国登録



大雲院書院
(旧大倉家京都別邸) ※1
国登録



旧並靖之邸 主屋※1
国登録



旧並靖之邸 窯塚※1
国登録



パピリオンコート
(旧山中合名会社美術館)
洋館※1
国登録



パピリオンコート
(旧山中合名会社美術館)
和館※1
国登録

[市指定・登録文化財]



下里家住宅
市登録



尊勝院本堂
市指定



粟田神社本殿，幣殿（棟札2枚・棟札写し2枚）・拝殿

[国指定名勝]



旧円徳院庭園※2
国指定

[市指定名勝]



並河家庭園
市指定

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
※2：（画像）Googleストリートビュー

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

東山風致地区

【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ヶ嶽、稲荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。また、山科北東（毘沙門堂）の山地では、林業による植林等が施され、緑豊かな森林となっている。各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上浄水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

【良好な景観の形成に関する方針】

● 東山地区の歴史的環境及び自然的環境

地区全体としては、多くの社寺や名勝旧跡と一体となった自然的環境の維持、その周辺の宅地の歴史的環境及び自然的環境の維持に重点を置く。また、数多く点在する社寺の参道におけるそれぞれが特色を持った優れた風致特性の保全、さらに、東山等の山を借景とする社寺や庭園も多く存在し、これらの借景空間の保全を図る。

● 円山公園及び八坂神社一帯の趣のある沿道景観

円山公園及び八坂神社一帯では、青蓮院や知恩院、八坂神社及び円山公園等の変化に富む要素と東山山ろくの自然とが組み合わせられて、京都の代表的景勝地となっている。これを取り巻く形で、神宮道をはじめ、蹴上から栗田・華頂等の地区や三条通周辺等の散策道沿いでは趣のある沿道景観が形成されているため、これらの沿道景観の保全に配慮する。また、この地域に点在する大規模建築物は、景観特性上重要な構成要素であることから、建築デザインや外構デザイン及び植栽の水準のなお一層の向上を図る。さらに、下河原近辺は和風様式の飲食店や店舗が多く、落ち着きのある和風空間が形成されているため、特に、周辺環境との調和に配慮する。

歴史遺産型美観地区（祇園・清水寺周辺）

祇園・清水寺周辺地域は、八坂ノ塔（法観寺）、高台寺、建仁寺、八坂神社等の由緒ある社寺建築物と産寧坂、二年坂の石段と折れ曲がった石畳の坂道、五条坂、ちゃわん坂、清水坂（松原通）等の道に沿って立ち並ぶ江戸時代末期から昭和初期にかけての京町家からなる町並みや周辺に集積する寺院の伽藍や土塀、沿道の石積擁壁などにより、通りごとに特性が異なる景観が融合している。江戸時代から明治時代にかけて建てられた京町家を残す産寧坂や大正時代に住宅地として開発された石塀小路は、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区に指定し、歴史的風景の保全に努める。こうした景観特性を継承することをこの地域の景観形成の基本方針とする。

建築物は、それぞれに趣のある伝統的な店舗を構え、京町家の伝統を生かした趣の異なる特性を呈している。このため、道路に面する3階以上の外壁面を、1階の外壁面より十分に後退させることにより、2階建を基本とした京町家の町並み景観との連続性を維持する。また、日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、真壁造、格子戸等の和風意匠を継承したデザインを取り入れることにより、京町家や社寺等が融和する歴史的町並み景観に配慮した景観の整備を行う。さらに、数寄屋造や民家の様式も適切に取り入れ、多様であるが統一感のある町並み景観を形成する。様式も適切に取り入れ、多様であるが統一感のある町並み景観を形成する。

岸辺型美観地区（歴史的町並み－白川(岡崎・祇園)）

岡崎公園南側から有濟橋までの間の白川及びその沿道から構成されるこの地域は、白川や疏水の水を多彩につかった水車業や友禅染などの生業が活発におこなわれた地域であり、浅瀬のせせらぎと街路樹、一本橋（通称「行者橋」の石橋）及び河川沿いに連担して立ち並ぶ伝統的な木造建築物とが一体となった、独特の情緒と風情を醸し出す岸辺景観を形成している。また、東山を仰ぐ華頂道からは、知恩院の山門や黒門をアイストップとして眺めることができる。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本とする。

このため、建築物は、深い軒を有する日本瓦ぶき等の勾配屋根を設けることや、白川のせせらぎと調和するように、河川側の3階以上の壁面を1階の壁面より十分に後退させて、白川への圧迫感を低減することなど、伝統的な木造建築物が連担する町並みと調和させることにより、良好な岸辺景観の保全、形成を図る。また、一本橋南側の華頂道周辺の建築物については、知恩院の山門及び塔頭の土塀等との調和に配慮した形態意匠とすることにより、歴史的な町並み景観の保全を図る。



1) 神宮道の様子



2) 円山公園の様子



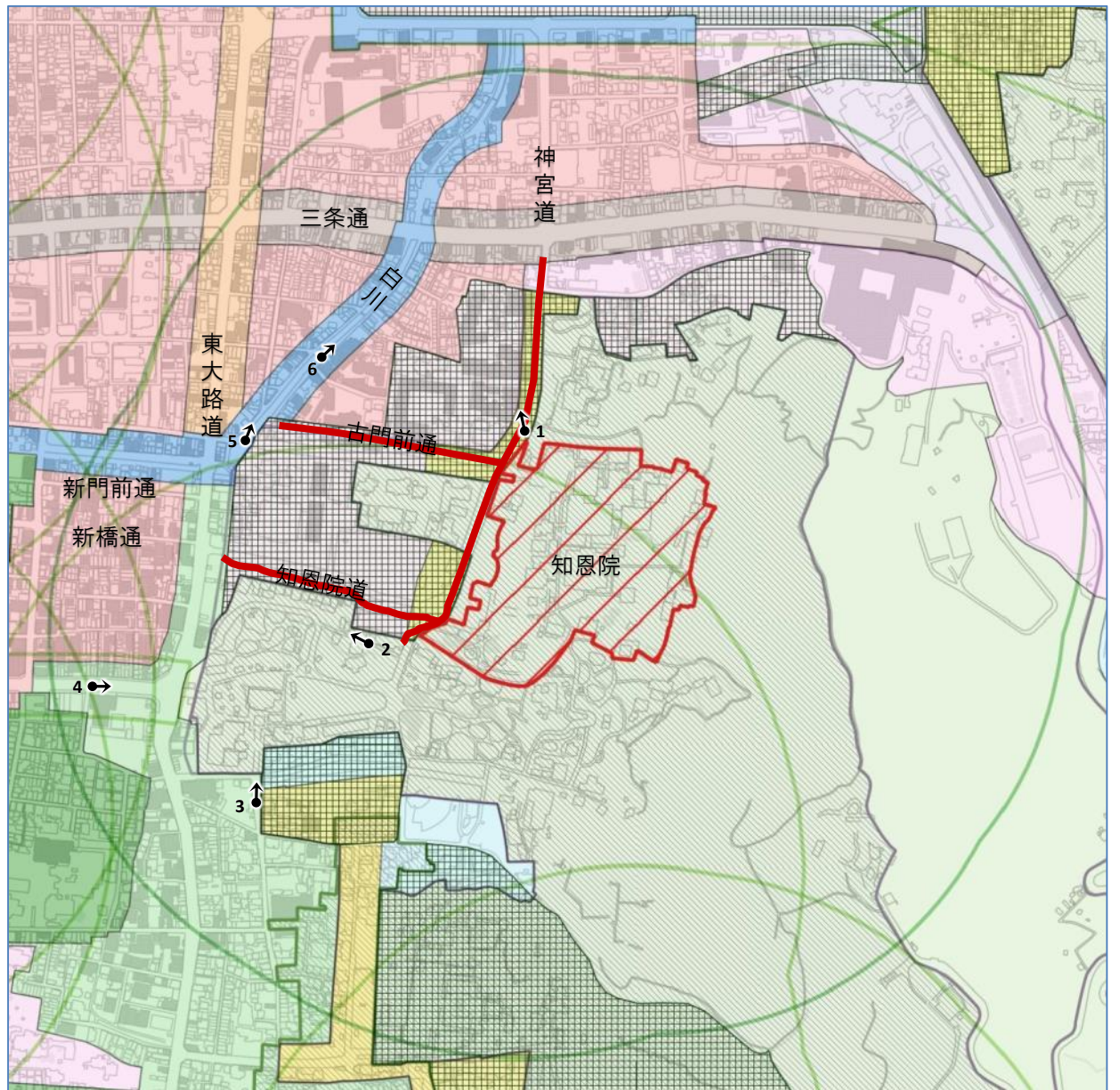
3) 八坂神社南側の町並み



4) 四条通の町並み



5) 白川周辺の町並み



【凡例】

眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区

- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

景観地区

- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区 一般地区
- 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

建築物修景地区

- 山ろく型建築物修景地区
- 山並み背景型建築物修景地区
- 岸辺型建築物修景地区
- 町並み型建築物修景地区

その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

1) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.133,p.134
2) 同上, p.135
3) 同上, p.57
4) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館, 1994, p.256
5) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課, 2013, p.27
6) 同上, p.19
7) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.57
8) 同上, p.57
9) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館, 1994, p.256
10) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.135
11) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典.淡交社, 1984, p.206
12) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.133,p.134
13) 同上, p.57
14) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典.淡交社, 1984, p.206
15) 同上, p.205
16) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課, 2013, p.19
17) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.57
18) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課, 2013, p.27
19) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典.淡交社, 1984, p.865
20) 同上, p.865
21) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課, 2013, p.40
22) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社, 1987, p.135
23) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館, 1994, p.256
24) 平凡社. 寺院神社大事典 1 京都・山城. 平凡社, 1997, p.467
25) 同上, p.689
26) 同上, p.378-p.379
27) 同上, p.495-p.496
28) 同上, p.240
29) 同上, p.865

(町並み版)

※(町並み版)とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 知恩院からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 知恩院は東山の山麓部の高台に位置し、東側に東山がせまっている。
- ・ 御影堂付近の境内から西側に向けては、樹間や三門越しに市街地が俯瞰景として見える。
- ・ 黒門付近からは、黒門前から青蓮院門跡へと続く神宮道沿いのマンションなどが一部垣間見える。



1-1 千姫のお墓から西への眺望
：市街が遠望できる。



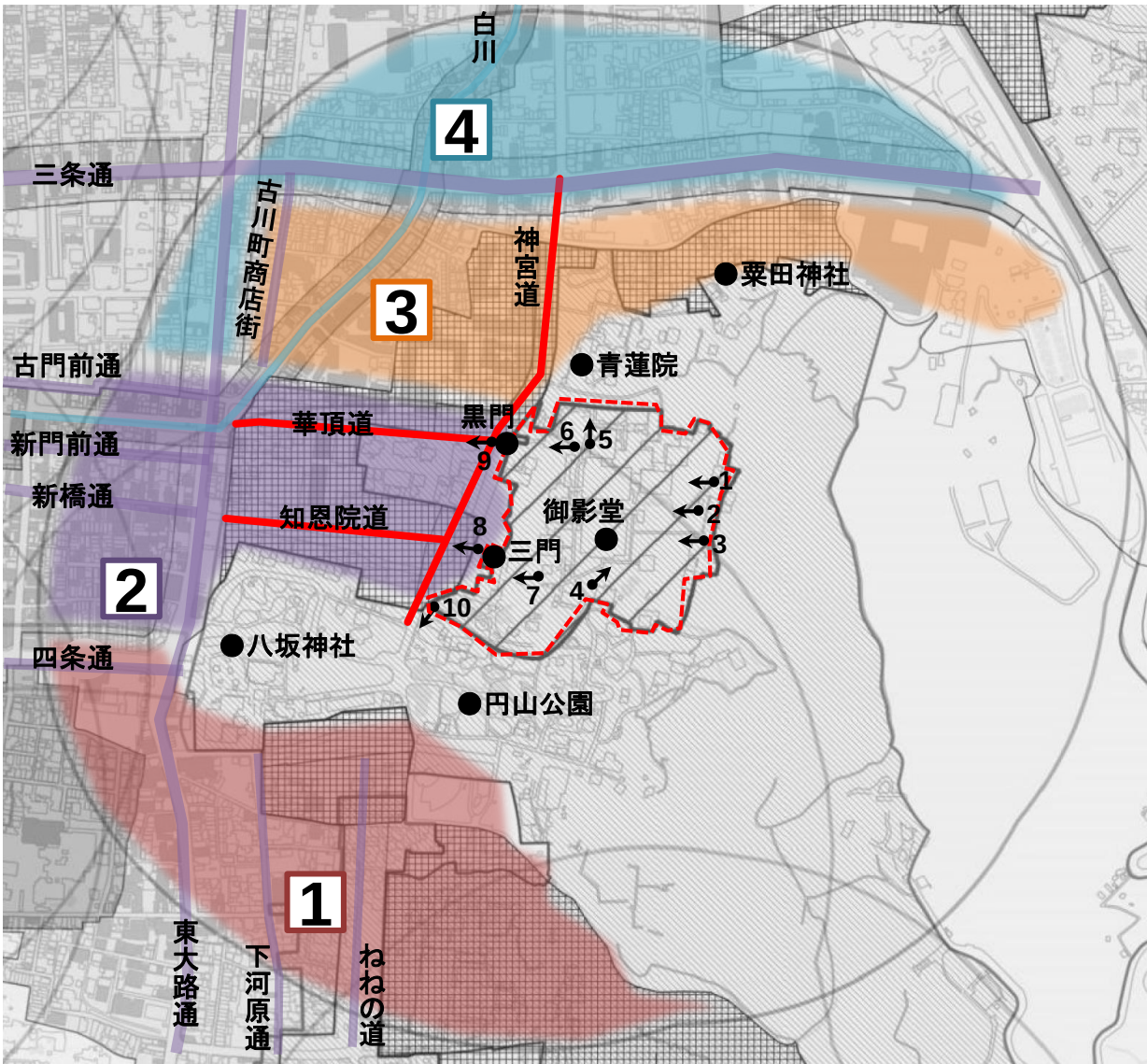
1-2 勢至堂から西への眺望
：市街が遠望できる。



1-3 御廟から西への眺望
：市街が遠望できる。



1-4 御影堂前から北東への眺望
：背後の東山を展望できる。



 視点場(境内)
 —— 視点場(参道等)
 —— 主な通り



1-5 北門から北への眺望
：周辺の建築物は視認されない。



1-6 北門から西への眺望
：京都華頂大学等が垣間見える。



1-7 女坂から西への眺望
：市街が遠望できる。



1-8 三門から西への眺望
：知恩院道沿道の建築物や緑が見える。



1-9 黒門から西への眺望
：華頂道沿道の並木が見える



1-10 南門から円山公園への眺望
：南門の先は円山公園となる。

2 知恩院周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・神宮道沿いは、青蓮院などの寺社、和風外観の建築物などが並び、和風の塀や石垣、生垣が続く趣のある景観となっている。
- ・古門前通から華頂道を通り黒門へと続く参道や、新橋通から知恩院道を通り三門へと続く参道からは、威厳高く存在する門や建築物、境内の緑を、東山を背景に臨むことができる。



2-1 知恩院道から西への眺望
：新門の先に祇園界隈の商業ビルが見える。



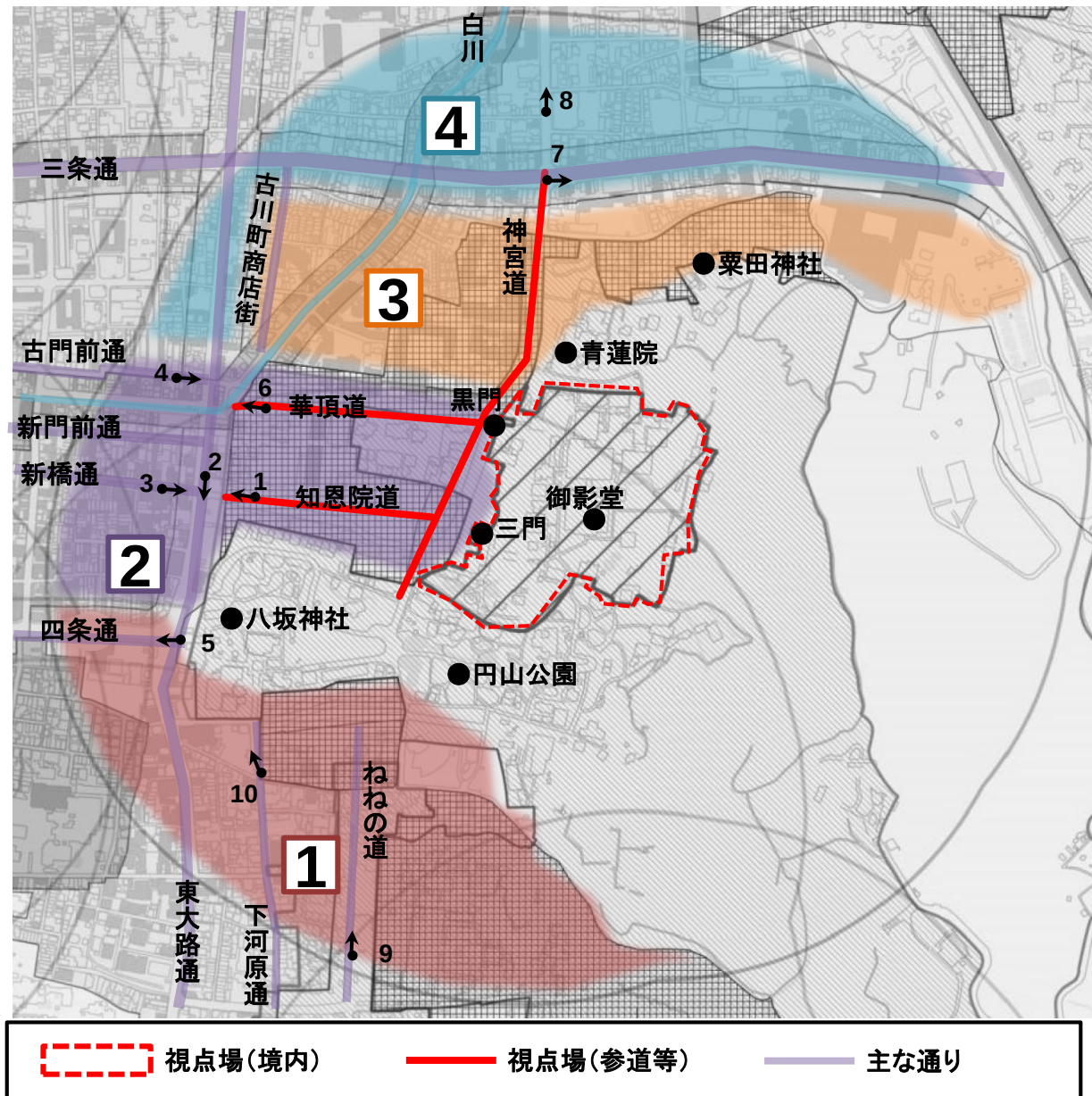
2-2 東大路新橋通から南への眺望
：東大路通沿道に商業ビルの町並みが見える。



2-3 新橋通から新門への眺望
：新橋通沿道に商業系の建築物が並ぶ。



2-4 古門前通から古門への眺望
：町家と商業系の建築物が混在している。



2-5 祇園石段下から東への眺望
：祇園商店街の町並みが見える。



2-6 華頂道から古門への眺望
：古門の先に祇園界隈の商業ビルが見える。



2-7 三條通から東への眺望
：通りの先に東山が見える。



2-8 神宮道から平安神宮への眺望
：神宮道の先に平安神宮の大鳥居が見える。

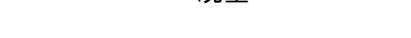


2-9 高台寺前からねねの道への眺望
：石畳の沿道に和塀や高台寺の生垣が続いている。



2-10 下河原通から八坂神社への眺望
：町家の町並みの先に八坂神社の南楼門が見える。

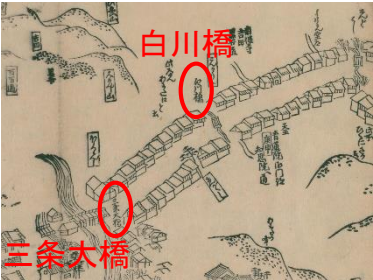
3 知恩院周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 八坂神社・円山公園南側			参考写真等		
ア エリアの歴史等	・江戸時代、広く祇園と称された地域は、祇園廻り・祇園社境内・祇園村の三地区よりなっていた。 ・祇園廻りは、祇園社南楼門門前に展開する街区で下河原や八坂と称される一帯。祇園村は、西楼門から鴨川以东の一帯をいう。				
	イ 町並みの特徴		3-1 大成京細見繪圖 (慶應4年(1868)) 		
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	風致地区	3-2 石塀小路の町並み 		
	由緒ある社寺建築物と京町家からなる町並み、寺院の伽藍や土塀などにより、通りごとに特性が異なる景観が融合している。	円山公園及び八坂神社一帯は、京都の代表的景勝地であり、趣のある沿道景観が形成されているため、これらの沿道景観の保全に配慮する。	3-3 ねねの道から北への眺望 		
エ 求める配慮事項	道路に面する3階以上の外壁を十分に後退させ、2階建を基本とした京町家の町並み景観との連続性を維持する。日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、和風意匠を継承したデザインを採り入れる。		3-4 下河原通から八坂神社への眺望 		
2 知恩院西側			参考写真等		
ア エリアの歴史等	・古門前通と新門前通が通じ町並みを形成している。 ・古門前通は知恩院古門より西へ縄手通に至る街路。「新改洛陽并洛外之圖(1653承応2)」に「知恩院門前」の名でこの通りがみられる。後に三門前から大和大路通に至る新道が開通するにあたり「上門前」または「古門前」とよばれ「古門前」の名が残った。 ・新門前通は東大路通より縄手通に至る街路。画廊や古美術商の店舗が多い。開通は寛文年間(1661-1673)と考えられ、江戸時代初期には古門前通の町とあわせて知恩院の門前町が完成した。				
	イ 町並みの特徴		3-5 新改洛陽并洛外之圖 (1653承応2) 現「古門前通」が「上門前」と示されている。 		
ウ 景観形成方針	岸辺型美観地区	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	3-6 京大絵図(貞享3(1686)) 「下ちをんいん丁」と「新門前通」が示されている。 	
	浅瀬のせせらぎと街路樹、一本橋、及び河川沿いの伝統的な木造建築物とが一体となった独特の情緒と風情のある岸辺景観を形成している。	由緒ある社寺建築物と京町家からなる町並み、寺院の伽藍や土塀などにより、通りごとに特性が異なる景観が融合している。	京町家を中心とした歴史的な町並みを多く残す地域である。祇園などの茶屋町や新門前の骨董屋街等、特徴的な町並みを形成している。	3-7 東大路通から新橋通を西に見た町並み 	
エ 求める配慮事項	深い軒を有する日本瓦ぶき等の勾配屋根を設けることや、白川側の3階以上の壁面の後退など白川への圧迫感を低減する。	2階建を基本とした京町家の町並み景観との連続性を維持する。日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、和風意匠を継承したデザインを採り入れる。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面した空地には門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観を保全する。	3-8 東大路通から古門前通を西に見た町並み 	

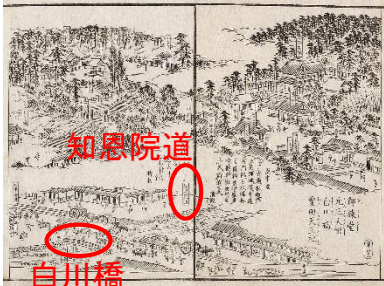
3 青蓮院西側

ア エリアの歴史等	・古川町商店街は、若狭街道の終着点であり知恩院・青蓮院の門前市場としても利用され、江戸から明治にかけて「東の錦」とよばれ食料品を中心に扱う店舗が集中し旅人や商人の往来で賑わった。 ・地域の景観に変化をもたらしたのは、明治44年(1911)から大正初期にかけて行われた東山通(東大路通)の拡幅と京都市電の敷設、三条通の京阪電車京津線の敷設などの近代化に伴うものであった。		
	イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	・青蓮院、粟田神社などが位置する山際の地域は、青蓮院・知恩院特別修景地域に指定されており、和風外観の建築物や土塀、生垣、樹木などが連なる趣のある町並みが形成されている。 ・白川沿いは、浅瀬のせせらぎと街路樹、河川沿いの木造建築などが一体となって岸辺の風景を形作っている。河川沿いには周辺住民によって手入れされている植栽があったり、水辺へのアクセスが可能な場所もあり、河川を身近に感じられる空間となっている。 ・白川の左岸には、何本かの袋路があり、中には80m程度の深い路地も見られ、穏やかな生活感がたよう空間となっている。 ・白川の西には古川町商店街がある。アーケードのある細い通りの商店街で、かつては東の錦と言われていた。近年は一部の商店がゲストハウスなどに変わっている。 文化財等 ：良正院本堂、良正院表門、パビリオンコート(洋館、和館、門)ほか、青蓮院旧仮御所(史跡)		
	・浅瀬のせせらぎと街路樹、一本橋、及び河川沿いの伝統的な木造建築物とが一体となった独特の情緒と風情のある岸辺景観を形成している。	・京町家を中心とした歴史的な町並みを多く残す地域である。祇園などの茶屋町や新門前の骨董屋街等、特徴的な町並みを形成している。	・円山公園及び八坂神社一帯は、京都の代表的景勝地であり、趣のある沿道景観が形成されているため、これらの沿道景観の保全に配慮する。
エ 求める配慮事項	・深い軒を有する日本瓦ぶき等の勾配屋根を設けることや、白川側の3階以上の壁面の後退など白川への圧迫感を低減する。	・建築物は勾配屋根を設け、道路に面した空地には門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観を保全する。	・この地域に点在する大規模建築物は、景観特性上重要な要素であるから、建築や外構のデザイン、植栽の水準のなお一層の向上を図る。

参考写真等



3-9 花洛名所図会
(白川橋付近三条街道界限)
：人々の往来と物流の要所であったことがうかがえる。



3-10 東海道分間図
(粟田口付近)
：街道の町並みや南禅寺方面や知恩院方面にのびる道路が描かれている。



3-11 粟田神社周辺の町並み



3-12 古門前通から白川上流、一本橋付近の風景

4 三条通周辺

ア エリアの歴史等	・本地域は粟田口村といい、鎌倉時代以来、三条小鍛冶(粟田口派)で知られる刀工の住地であり、粟田口派の画工も居を構え江戸時代から明治にかけては粟田口焼の陶工を生むなど、村の歴史を特色づけた。 ・地域の景観に変化をもたらしたのは、明治44年(1911)から大正初期にかけて行われた東山通(東大路通)の拡幅と京都市電の敷設、三条通の京阪電車京津線の敷設などの近代化に伴うものであった。		
	イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	・京の七口の一つ、粟田口と呼ばれた地域であり、東海道の起終点である三条大橋につらなる地域である。この地域の東西の通りから東を臨むと、東山の山並みが眺望できる。 ・三条通沿道には、古い街道筋らしく伝統的な木造建築物が残っており、現在も旅館やホテルが多く立地している。 ・古くから開かれた地域であり、幹線道路から外れると、京町家が軒を連ねている。並河靖之七宝記念館をはじめ、歴史的意匠建造物に指定された町家なども存在する。こうした風情ある町並みの中に、一部マンションなどが混在する。 ・神宮道を北に向かうと平安神宮に至る。通りからは、平安神宮の大鳥居が見える。 ・三条通を東にいくと、蹴上発電所が立地している。 ・東山三条付近の東大路通は、商業系ビルが立ち並んでいる。 文化財等 ：旧並河靖之邸(主屋・工房・窯場)		
	沿道型美観地区	岸辺型美観地区	旧市街地型美観地区
エ 求める配慮事項	・三条通沿道には店舗や旅館などが連なり、旧街道の名残を現在に伝える。沿道の社寺、近代化遺産越しに東山の山並みを眺望することができる。	・浅瀬のせせらぎと街路樹、一本橋及び河川沿いの伝統的な木造建築物とが一体となった独特の情緒と風情のある岸辺景観を形成している。	・京町家を中心とした歴史的な町並みを多く残す地域である。祇園などの茶屋町や新門前の骨董屋街等、特徴的な町並みを形成している。
	・沿道に面した建築物等は高さを抑え京都らしい繊細で洗練された勾配屋根を持つ和風意匠による通り景観の保全に配慮する。	・深い軒を有する日本瓦ぶき等の勾配屋根を設けることや、白川側の3階以上の壁面の後退など白川への圧迫感を低減する。	・建築物は勾配屋根を設け、道路に面した空地には門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観を保全する。

参考写真等



3-13 最新京都市街地図
(大正9年(1920))
：京都市電・京阪電車京津線が敷設済。京津線の軌道が三条通より北に迂回している。



3-14 三条通から東山への眺望



3-15 神宮道から平安神宮への眺望



3-16 東山三条から南への眺望

- 3-1 「大成京細見繪圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
- 3-5 「新改洛陽并洛外之圖」国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp>）
- 3-6 「京大絵図」国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp>）
- 3-9 「花洛名所図会」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
- 3-10 「東海道分間図」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
- 3-13 「最新京都市街地圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）